

ルもの田畑をつくらせました。

そして、養蚕ようさんをしょうれいして、明治20年（1887年）には、赤坂東野石井草区へ桑くわなえ12万本をうえさせました。

また、植林しくりんにも力を入れて、すぎなえ12万本も買ってうえさせました。

源之助げんのすけは、明治22年（1889年）鮫川村の第1代村長になると、赤坂中野で盆市ぼんいちや暮市くれいちをひらき、村の商業がさかんになるようにつとめました。

また、馬のせり場をひらき、よい馬をそだてるようにと、村の人びどにはたらきかけました。おせりには、村じゅうからたくさんたくさんのよい馬があつまってきたので、よその地方からも馬をかう人がやってくるやってくるにぎわいました。そして赤坂せりとして有名になりました。

青生野の土地を開く

にいづま よしはる
新妻 臧晴（1853～1924年）

臧晴よしはるは、武士の子として今のいわき市で生まれました。明治13年（1880年）おじいさんといっしょに、土地を開こんするために青生野にうつりすみました。

臧晴よしはるは、心のしっかりしたまじめな人でした。

青生野の土地は、天明てんめいのききん（1785年）のため、が死したりよそへにげていったりした人が多く、すんでいる人はあまりいませんでした。でも、臧晴よしはるらがうつってきて、開こんをはじめからは、だんだん村の人びともふえてきました。

明治22年（1889年）臧晴よしはるは、私有林しゅうりんがないために区の人びどがこまっているのを知って、自分でお金かねを出して、国有林こくゆうりんのはらい下げさをねがい出まし

